

# 中尾小だより

〒336-0932 さいたま市緑区中尾 2596-1

HP <http://nakao-e.saitama-city.ed.jp> TEL:048-873-0216 FAX:048-810-1120

学校教育目標  
知・徳・体の調和のとれた  
心豊かな児童の育成

## 「体験活動の充実を」

校長 小長谷 雅彦

12月になります。最高気温が10度くらいの寒い日もありますが、落葉と青い空がとても清々しく感じられます。

11月3日(金)には、PTA主催の「ふれあいフェスティバル」が行われました。1学期からPTAで準備を進めていただき、好天に恵まれ子どもたちは楽しい1日を過ごすことができました。金管バンドの演奏もあり、地域の皆さんもたくさん参加していただきました。ありがとうございました。

11月7日から9日には、『さくらんぼ音楽会』が開かれました。子どもたちは、短い劇などを加えながら歌や合奏の練習を重ね、本番では、ストーリー仕立ての迫力のある素敵な音楽会になりました。兄弟学級での発表というのもよかったようです。今年度は保護者の参観もあり、子どもたちのやる気も昨年以上に見られたのではないかと思います。

さて11月の講話朝会で、体験活動について話しました。保護者の方にも知ってもらいたいと思い、少し内容を膨らませて、触れさせていただきます。

体験は、大きく3種類に分けられます。「直接体験」「間接体験」「疑似体験」です。その中でも小学生には、できるだけ「直接体験」を増やしてほしいと思っています。リアルな体験や五感を使って作業や制作をする体験です。大人に向けてスマートな生活をしていくためにも子ども時代は、時に不都合や不便さも体験してもらいたいし、そのことによって便利さが実感できると思います。無駄を省き効率化を目指すことも必要ですが、できないときに何か他の方法を考えることで人間力も高まるのでは?そういう体験ができるのが、そして必要なのが小学生だと思います。小学校の教員をしていると直接体験の大切さをより実感します。

学校の勉強はすべて体験できるものではありません。危険を伴うものもあります。直接は体験できないことをICT機器やシミュレーションを使って「疑似体験」することは、昔はできなかったことなので素晴らしいと思いますが、家族で冬の澄んだ夜空を見上げてみる・一緒に料理を作る・生の音楽をコンサートホールで聴くなど、ちょっと手間暇かければ「直接体験」できることは、ぜひ本物に触れる機会をご家庭でも増やしてほしいと思います。文科省の調査・分析からも「小学生の頃に体験活動などをよくしていると、その後の成長に良い影響が見られる」という結果が示されています。

先日の4年生の社会科見学では、浄水場や利根大堰を見てきました。6年生は国会議事堂の見学に行きました。これは、ビデオ等を視聴した「間接体験」で学習を済ませることもできますが、本物を実感してもらうために現地に出かけています。4年生の昼食場所では、レジャーシートが飛ばされるほどの強い北風が吹く中でお弁当を食べたこと。これも忘れられない体験となったのではないのでしょうか。

令和5年もあと一ヶ月です。インフルエンザや発熱等での欠席はまだ収まっていません。体調管理に注意しながら、素敵な新年が迎えられるように12月を過ごしていきたいものです。保護者の皆様、地域の皆様、本年は大変にお世話になりました。